

平成 24 年 3 月期 第 1 四半期連結決算概要

1. 連結決算実績 (23 年 4 月～23 年 6 月)

(1) 全体概要 (連結会社数：連結子会社 64 社、持分法適用関連会社 5 社) (単位：百万 m³、億円、円)

	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	3,532	3,547	△ 15	△ 0.4	3,197
売上高	3,767	3,664	103	2.8	3,256
営業利益	166	415	△ 249	△ 60.0	94
経常利益	163	414	△ 251	△ 60.5	164
四半期純利益	89	252	△ 163	△ 64.4	114
1株当たり四半期純利益	3.38	9.41	△ 6.03	△ 64.1	4.31
1株当たり純資産	318.96	320.70	△ 1.74	△ 0.5	263.53

(注) 1株当たり純資産は23年3月期末との比較

<当期決算のポイント>増収・減益とも2期連続。売上高は歴代2位(過去最高はH20)。

- 売上高は、工業用需要が発電用需要増により増加した一方で、気温影響による家庭用需要の減少及び震災・省エネ影響による既存設備の稼働減に伴う業務用需要の減少により、ガス販売量が 0.4%減少したものの、原油価格上昇に伴う原料費調整制度による売上単価増(107億円)等により、都市ガス売上高が 2.0%増の 2,874 億円となったこと、及び扇島パワーステーション2号機の稼働(平成22年7月稼働開始)等に伴いその他エネルギー(電力)売上高が 74 億円増加したこと等から、2.8%増の 3,767 億円となりました。
- 営業費用は、ガス原材料費が原油高の影響により 215 億円増加したこと、及び退職給付数理計算上の差異の負担増があったこと等により、10.9%増の 3,601 億円となりました。この結果、営業利益は 60.0%減の 166 億円となり、これに営業外損益を加減算し、経常利益は 60.5%減の 163 億円となりました。
- 当四半期及び前年同期は特別損益の計上はなく、四半期純利益は 64.4%減の 89 億円となりました。

(2) ガス販売量(販売量は45MJ/m³表記)

		当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)	
お客さま件数	千件	10,757	10,651	106	1.0	
ガス販売量	家庭用	百万m ³	941	△ 54	△ 5.8	
	業務用	百万m ³	670	△ 89	△ 13.3	
	工業用	百万m ³	1,601	1,480	121	8.2
	計	百万m ³	2,182	2,150	32	1.5
	他事業者向供給	百万m ³	463	456	7	1.5
	合計	百万m ³	3,532	3,547	△ 15	△ 0.4
平均気温	℃	18.6	18.3	0.3	—	

- 家庭用需要は、4月の気温が前年同期に比べて高く推移した影響で給湯・暖房需要が減少したこと等により 5.8%減少しました。
- 業務用需要は、震災及び省エネ影響による既存設備の稼働減等に伴い 13.3%減少しました。
- 工業用需要は、震災影響及び扇島パワーステーション2号機稼働に伴い発電用需要が増加したこと等により 8.2%増加しました。
- 他事業者向供給は、供給先事業者の需要増等により 1.5%増加しました。

(3) 収支概要(都市ガス以外の内訳は「(4) 部門別の概況」参照。全社費用は各事業に配賦不能の営業費用)

(単位：億円)

収 益		増 減	増減率(%)	費 用		増 減	増減率(%)	
都市ガス	2,874	57	2.0	都市ガス	原材料費	1,655	215	14.9
					その他	970	48	5.2
					計	2,625	263	11.1
都市ガス以外	1,342	72	5.6	都市ガス以外	1,323	106	8.7	
事業間内部消去	△ 448	△ 25	—	全社費用	109	10	10.6	
売上高	3,767	103	2.8	事業間内部消去	△ 457	△ 27	—	
営業外収益	42	△ 17	△ 28.1	営業費用	3,601	353	10.9	
特別利益	—	—	—	営業利益	166	△ 249	△ 60.0	
				営業外費用	45	△ 15	△ 25.5	
				経常利益	163	△ 251	△ 60.5	
				特別損失	—	—	—	
				四半期純利益	89	△ 163	△ 64.4	

(4) 部門別の概況

(単位：億円)

	売 上 高				セグメント利益			
	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)
都市ガス	2,874	2,817	57	2.0	249	454	△ 205	△ 45.2
器具及びガス工事	338	340	△ 2	△ 0.5	0	5	△ 5	△ 93.5
その他エネルギー	577	489	88	18.0	1	7	△ 6	△ 84.3
不動産	72	82	△ 10	△ 11.1	13	21	△ 8	△ 39.2
その他	353	359	△ 6	△ 1.6	3	18	△ 15	△ 79.1
都市ガス以外	1,342	1,270	72	5.6	18	53	△ 35	△ 65.3

(注) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、セグメント利益の算出には配賦不能営業費用を含んでいません。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増 減	増減率(%)
原油価格(\$/bbl)	114.96	81.30	33.66	41.4
為替レート(円/\$)	81.71	92.01	△ 10.30	△ 11.2
設備投資(億円)	255	296	△ 41	△ 13.7
有利子負債(億円)	6,166	5,841	325	5.6
支払利息等(億円)	23	24	△ 1	△ 3.5
その他有価証券評価益(億円)	207	233	△ 26	△ 11.1
営業キャッシュ・フロー(億円)	446	604	△ 158	△ 26.1
R O A (%)	0.5	1.4	△ 0.9	—
R O E (%)	1.1	3.1	△ 2.0	—

(注1) 営業キャッシュ・フロー＝四半期純利益＋減価償却費等

(注2) 有利子負債、その他有価証券評価益は23年3月期末との比較

2. 通期(24年3月期)の業績予想

<業績予想のポイント>	
○	業績予想は連結・個別ともに対前期「増収減益」の見通し。 (以下は、対前回業績予想)
○	連結業績予想は主に個別の業績予想の見直しに伴い、売上高は 2.7%減少するものの、経常利益は 11.5%増加の見通し。
○	個別業績予想のうちガス販売量は、業務用既存設備の稼働減等により 0.2%減少の見通し。
○	また、ガス販売量の減少に伴う売上高減に加え、原油価格下落(前回業績予想時より経済フレームを原油安・円高に見直し)に伴う原料費調整制度による売上単価減等により、ガス売上高は 3.8%減少の見通し。一方、原材料費がガス売上高の減少を上回る 6.7%の減少となること等から経常利益は 13.2%増加の見通し。
○	経済フレームは、7月以降原油価格 110\$/bbl、為替レート 80円/\$と想定。

(単位：百万m³、億円)

	連結決算					(参考)個別決算				
	通期 業績予想	対前期 増減	対前期 増減率(%)	対前回(4/28発表時) 増減	対前回(4/28発表時) 増減率(%)	通期 業績予想	対前期 増減	対前期 増減率(%)	対前回(4/28発表時) 増減	対前回(4/28発表時) 増減率(%)
ガス販売量	14,626	△ 119	△ 0.8	2	0.0	13,348	△ 93	△ 0.7	△ 23	△ 0.2
売上高	17,050	1,698	11.1	△ 470	△ 2.7	14,920	1,622	12.2	△ 470	△ 3.1
都市ガス	12,769	1,399	12.3	△ 455	△ 3.4	11,930	1,214	11.3	△ 470	△ 3.8
都市ガス以外	4,281	300	7.5	△ 15	△ 0.3	2,990	409	15.8	0	0.0
営業利益	610	△ 614	△ 50.2	40	7.0	370	△ 518	△ 58.4	40	12.1
経常利益	580	△ 635	△ 52.3	60	11.5	430	△ 561	△ 56.6	50	13.2
当期純利益	370	△ 584	△ 61.2	40	12.1	300	△ 374	△ 55.6	30	11.1

(注) 事業間の内部取引高は都市ガス以外の欄で調整しています。

<前提となる経済フレーム>

	今回 通期見通し	対前期		対前回(4/28発表時)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
原油価格(\$/bbl)	111.24	27.09	32.2	△ 5.01	△ 4.3
為替レート(円/\$)	80.43	△ 5.31	△ 6.2	△ 4.57	△ 5.4

(注1) 原油価格：前期実績 84.15\$/bbl、前回見通し 116.25\$/bbl 原油+1\$/bblの2Q以降への収支影響：△13億円(売上高20億円、原料費33億円)

(注2) 為替レート：前期実績 85.74円/\$、前回見通し 85.00円/\$ 為替+1円/\$の2Q以降への収支影響：△16億円(売上高46億円、原料費62億円)